令和５年度第３回総合教育会議　要旨

<table>
<tr><td>1</td><td>日　　時</td><td colspan="2">令和５年１１月１６日（木）午後１時３０分から午後２時３０分まで</td></tr>
<tr><td>2</td><td>場　　所</td><td colspan="2">本庁舎２階　庁議室</td></tr>
<tr><td rowspan="10">3</td><td rowspan="10">出　席　者</td><td>【委員】</td><td>【事務局等】</td></tr>
<tr><td>郡山市長　　品川　萬里</td><td>政策開発部長　　佐藤　達也</td></tr>
<tr><td>教育長　　小野　義明</td><td>政策開発部次長　　石橋　智之</td></tr>
<tr><td>教育長職務代理者　　阿部　亜巳</td><td>ＤＸ推進監　　小野　貴裕</td></tr>
<tr><td>教育委員　　今泉　玲子</td><td>教育総務部長　　寄金　孝一</td></tr>
<tr><td>教育委員　　藤田　浩志</td><td>学校教育部長　　嶋　忠夫</td></tr>
<tr><td>教育委員　　田中　里香</td><td>学校管理課長　　二瓶　元嘉</td></tr>
<tr><td>教育委員　　見越　大樹</td><td>学校教育推進課長　　日下　明彦</td></tr>
<tr><td></td><td>教育研修センター所長　　中目　雅彦</td></tr>
<tr><td></td><td>総合教育支援センター所長　　新田　泰尋</td></tr>
<tr><td>4</td><td>内　　容</td><td colspan="2">議　題　（１）学びのＤＸ（教育活動の一層の充実、教職員の働きやすさ）
報　告　（１）不登校の状況
（２）いじめ対策
（３）地区別学校別児童・生徒数</td></tr>
<tr><td>5</td><td>議事内容</td><td colspan="2">１　開　会
令和５年度第３回郡山市総合教育会議を始めます。なお、本会議は郡山市ユーチューブチャンネルにおいて動画配信により公開しております。ご了承いただきたい。

２　市長あいさつ
〇品川市長
本日の議題である「学びのＤＸ」が不登校やいじめ問題等にどう繋がっていくかなどお聞きしたいと思う。

３　議題　学びのＤＸ（教育活動の一層の充実、教職員の働きやすさ）
（学校教育部長、教育研修センター所長から説明）

〇見越委員
学習用デジタル教科書の活用とあるが、具体的にどのようなものか。</td></tr>
</table>

		○学校教育推進課長 　図や動画、問題等が入っており教科書が PDF で入っているだけというものではない。 ○学校教育部長 　特に英語はネイティブな発音を聞くことができたり、また、書き込みができたりと多様な使い方ができる。 ○品川市長 　資料３ページ、右下の都道府県レベル順位とは。 ○学校教育部長 　都道府県別で出されている本調査結果に郡山市の割合を当てはめて、概ね第何位相当かということを標記している。 ○品川市長 　教育のＤＸの状況について、福島市、いわき市と情報交換等を行ってはどうか。 ○教育研修センター所長 　福島市、いわき市と情報共有を行っており、来年度の研修、講座等に活用できないかと話している。 ○藤田委員 　現在の、児童生徒が一人一台タブレット端末を使用できる状況はすばらしい。 　他の自治体で、端末自体の不具合等により保守管理及び更新で多額の費用がかかっているということがあった。本市のタブレット端末の保守管理及び更新についての状況はどうなっているか。 ○教育支援センター所長 　保守について、今年度は故障に対して１千万円の予算を計上しており随時対応できる状況である。更新については県の支援も活用し、子ども達に不利益の無いよう最新のものを準備していきたい。 　委員ご指摘のような端末本体の不具合は無いが、４.５年生についてはタブレット端末に着脱式のキーボードを取り付けている形になっており、その接続部分が不安定であるため昨年度末に故障の修理を行った。

		○藤田委員 　保守管理等は評価されにくい予算だと思われるが、今後、継続的に子ども達の教育環境を整えるために必要な予算であることを市民の皆さんにもわかりやすく説明できるようにしてほしい。 　また、タブレット端末について、画面をむき出しのまま無造作に持ち運んだり、椅子や床に置いたりということを目にすることがある。踏んでしまうなどして破損するようなことが怖いと思う。使い方だけでなく、精密機器、電子機器としての取り扱い方も指導していただけると、親としても安心できる。 ○品川市長 　全児童・生徒に対して取り扱い方法の指導や、故障・破損状況の実例を示すなどもお願いしたい。 ○教育研修センター所長 　11 月 4 日の校長会議の際に、実際に起こった事例に対する対応策について、具体例を示し周知をお願いした。 ○品川市長 　タブレットでの学習に関して、自分の学年とは違う学年の学習をしたいというようなケースは実際あるか。 ○教育研修センター所長 　安積中学校の生徒で、中学校 1 年生から 3 年生までの内容を既に何周も学習している生徒がいるということを聞いている。各学校においては、自分で選んで学習に取り組めるような環境を作り、自分の学年よりも一つ上の学年の内容に取り組んでいる等の実例もある。 ○品川市長 　憲法第 26 条には、すべて国民は、その能力に応じてひとしく教育を受ける権利を有するとある。「学齢」ではなく「能力」に応じて。ただ今の事例は、憲法第 26 条の実例として共有してほしい。 　ＤＸによって憲法第 26 条に基づいた学習がしやすくなったという風に感じている。 ○阿部職務代理者 　保護者として、タブレットの導入は非常にありがたいと感じている。塾に行ける行けないに関わらずスタディサプリで勉強することが可能であるし、現在のように、インフルエンザが流行して学級閉鎖等で学校に行けない間、以前ならば、休んだ間のプリントやノートを見せてもらうなどが必要であったが、今はスタディサプリで自分でフォローしていくことが可能

		であるので、家庭の金銭的な事情に関わらず全ての子ども達に学習の機会を提供できるという意味でとてもすばらしい取り組みだと思う。 　また、統合型校務支援システムの活用についても、先生の多忙化が問題となっている中で大変良い取り組みだと考えている。保護者としてはこれをもっと進めていただき、学校からのお便り等もタブレットを通じた配布を徹底していけば、紙の節約にもなり、先生方が印刷して配布する手間も省ける。また、保護者としても見逃しを防げるということにつながるため進めていただきたい。 〇品川市長 　デジタル新聞について、福島民報さんも始めたようなので、選択肢が広がるようにしてはどうか。 〇学校教育推進課長 　今後選択肢が増えるようにしたい。 4　報告　（１）不登校の状況 （総合教育支援センター所長から説明） 〇阿部職務代理者 　資料にある以外にも、学習の遅れを生じさせないための取り組み等があったかと思うが、どのようなものがあったか。 〇総合教育支援センター所長 　学校での学習の遅れを生じさせないために、タブレット端末の持ち帰りにより、家でタブレットドリルに取り組んだり、ロイロノートというアプリを使ってメールのような形で、担任の先生が今日はこれに取り組んでみようとか、調子はどうかとか、学習の進度を聞いたりなどのやりとりをする等の支援をしている。 　また、総合教育支援センターに設置しているふれあい学級では、学校からの課題だけでなく、自分でここまで進めたいということに対して支援をすることもある。ふれあい学級と学校が連携しており、指導要録上、出席という取り扱いをしているということもある。 〇阿部職務代理者 　不登校の原因が解消され、いざ学校に行こうとなった場合に、学習の遅れが原因で行きづらいということがないよう、今説明にあったような取り組みを進めていただければと思う。

		〇品川市長 　不登校児童・生徒数の伸び具合が、小学校も中学校も極めて急カーブだが、この状況をどう分析しているか。 〇総合教育支援センター所長 　本市の不登校児童・生徒数の推移は全国・福島県と同じような傾向を示しているが、令和に入り、コロナ禍における生活環境の変化や、学校生活における様々な制限の中で、人間関係がうまく築けないといったこと、友達に気を使いすぎて疲れてしまい学校に行けなくなるといった児童・生徒が増えているように思われる。 〇品川市長 　不登校の要因として、無気力や不安といったことが多いが、例えば不安があり学校には行きたくないが、タブレットを使って先生とのコミュニケーションはとれているとか、そういった事例はあるか。 〇総合教育支援センター所長 　タブレットで先生とコミュニケーションが取れているという生徒は多い。中には、好き嫌いということではなく誰とも関係を持ちたくないという子どももいるが、タブレットによって先生との関係を切らさないという取り組みは多くなってきている。 〇品川市長 　例えばタブレットを使って先生とコミュニケーションをとることによって、去年よりも今年は欠席日数が減ったとか、あるいは自宅での勉強がしやすいとか様々な事例があると思う。不登校を経て、その後学校に出て友たちと交流するようになったとか、１件でも２件でもよいので、そういう例をベストプラクティスとして把握し、学校に来られるようになった動機を探って要因分析し、学校間で共有するなどはどうか。 〇総合教育支援センター所長 　令和元年 10 月 25 日文部科学省からの「不登校児童への支援の在り方について」の通知の中で、学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、児童・生徒の自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること、また、児童・生徒によっては、不登校の時期が休養や自分を見つめ直すといった積極的な意味を持つということがあるということも示されている。 　学校の様々な事例を「私の居場所ができた」という冊子にし、事例毎に、どこと繋がり、どう改善したなどの例を示して学校に共有している。

		〇田中委員 　ＤＸの説明の中で、児童・生徒の心身の状態をチェックし、状態を早めに掴むといった内容があったが、それらを踏まえて先生が生徒と話しをすることで、様子がいつもと違うなど様々な状況を早め早めに把握することはとても大切だと思う。 　令和４年度と令和５年度の不登校の要因で「その他」が増えているという話があった。要因が家庭環境だったりということもあるようなので、何か問題点があるのであれば早めに対応することによって防げるものもあると思う。ＤＸを進めていく中でそれらを進めていただきたい。 〇総合教育支援センター所長 　一人一台配布しているタブレットで、児童・生徒自身が自分の心身の状態を星の数で可視化し、それらを教職員が把握するというツールを現在試行している。システム面、運用面の課題を洗い出し、できれば来年度４月から全校一斉実施と考えている。今のところ小・中学校各１校で試行している。 　アプリのアイコンをタップすると、今日のあなたの心や体の調子はどうですかと聞いてくる画面が出るので、５が大変良い、４が良いで３が普通、２があまり良くない、１が良くないと星の数で表す内容になっている。子どもたちが自分の状態に応じてタップする。先生方はそれらの内容を把握し、星一つの子には個別にそっと声掛けをしたりすることができるようになっている。 　これらのデータを蓄積していくことで、目に見えにくい心身の健康状態を可視化し、不安や悩みや虐待等の早期発見につなげ、例えば、この子はいつから元気がないのかというような行動の変化や不登校のきっかけを探り先生方全員で共有することもできると考える。 まだ始まったばかりなので、先生方の負担等も含めて 12 月にアンケートを行う予定である。 〇品川市長 　先生方が、教える立場にとっても良い情報、良いツールであるとなるよう改善に向けた意見を求めるなど対応してほしい。 〇藤田委員 　こういったシステムは非常に重要だと思っている。ベテランの先生であれば不登校になりやすい子どもの傾向を経験的につかんでいるということがあると思うが経験の浅い先生だとなかなか難しい。 　農業においても、ベテランであれば状況に応じた対応を経験的にわかっているが、始めたばかりの人ではそうはいかない。現在は様々なデータを蓄積して数値化し、状況に応じて必要な対応を示してくれるようなシステ

		ムができてきている。そういった形で支援システムが教育の場でも活用できると良い。 　例えば、学習面で不安を抱えやすい子の場合に、分かりやすくいえばテストの点が下がったとか、家庭環境の面でいえば、通知をデータでやりとりすることで、それを開封したかどうかなど。まったく開封していないということであれば、もしかすると子どもに関心がないのではないかというような形でアラートが出るようなシステムがあると、何らかのケアがしやすくなると思う。 　経験の短さをデータで補うようなシステムをぜひ積極的に導入してほしい。 〇品川市長 　今回のシステムは、11 月から試行しているとのことなので、四半期に 1 回程度経過観察し、導入が必要となればぜひ予算要求してほしい。 〇見越委員 　可能であれば、どういう星をつけた子どもが不登校になったなどの統計やその後の経過なども人工知能で学習させて残していけると良いと思う。 〇教育研修センター所長 　現在試行段階なので今後の参考とさせていただく。 〇品川市長 　では、次に子どもの権利に関する条約について。ただ今お配りした原文を見ていただき、学校の課題、家庭の課題、社会の課題について教育委員会においてもお話いただければと思う。 　児童の権利に関する条約をよく読んでみると、非常に多角的に広範囲にかつ深くいろいろなケースを踏まえて条約ができているなと思う。日本も批准しているので、行政の中で、あるいは教育の中で遵守し尊重しなければならないと思う。よく読んでいただきたい。 　本日はそれぞれ複眼的にみなければならない課題を一連でお願いしたので、資料をよく分析し、今後に活かしていきたい。また来年の予算編成に活かしていきたいと思う。教育委員会においても多角的にとらえ、また、新しい方針も敏感にとらえていただきたい。 〇今泉委員 　全員が 100％満足ということはなかなか無いと考える。自分自身で努力することも必要であり、それらを指導していくことも大切。 　子どもたちには、物事を深く考えられる人に育ってほしいと思う。

		○見越委員 　ＤＸに関して思ったよりも郡山市は進んでいると感じた。 ○小野教育長 　学びのＤＸと関連させ、不登校の状況やいじめ対策等について委員の方々からいろいろとお話いただいた。 　誰一人取り残されない教育の推進をメインに取り組んでいるので、一人ひとりの子どもたちに寄り添いながら、さまざまな教育環境を充実させて、多様性と調和を目指しながらこれからも進めていきたい。 ○品川市長 　先生方がベストプラクティスで仕事ができるような環境を整備し、そして児童・生徒がまさに基本的人権を有する一人の主体として学びたいことを学び、それぞれの道を自主的に選べるように育てるということが大事だと考えている。 　児童・生徒が柔軟に主体的に新しい道を選択できる環境整備をしていく、それをサポートしていくということが、市長部局と教育委員会それぞれの共通の課題だと認識している。 5　閉会
6	会 議 資 料	（１）第３回総合教育会議次第資料 2023.11.16